

多様な入札契約方式モデル事業報告会の概要

日時・場所

日時：平成30年4月27日（金）13:00～15:00
 場所：中央合同庁舎3号館 10階共用会議室

出席者

25機関（40名）

説明者

国土交通省、支援を受けた地方公共団体（4団体）

報告内容

①多様な入札契約方式モデル事業の概要 ②平成29年度取組結果 等



参加者からの感想

参加して良かった点

- 課題の多い事業を進めるにあたり、**課題をどのように深堀し、整理するのかという点**について知ることができた。
- 公共事業を取り巻く環境が一層厳しくなっていく中で、**自治体の課題を解消しながら、特徴等をうまく利活用する方法**として多様な入札契約方式が存在することを認識することができた。
- **限られた期間内で大規模な事業を完了させる**ために、最適な入札契約方式を選択するためのノウハウが無い場合に、多様な入札契約方式モデル事業は役立つ事業であるとわかった。

参考になった取組事例・理由

- 自治体が抱える課題に応じた多様な入札契約方式を採用することにより、**コスト削減や品質の均一化等の効果が得られる**ということについて知ることができた。
- 大規模災害の事例は、災害が起こったときにどうするのかというマニュアル作成業務と理解しているが、入札契約方式云々ではなく、**こういうものを行政が整備すべきである**ということが認識できた。
- 短期間で大規模事業を達成するためには、このように**民間の力を活用し、迅速に目標を達成**するモデルケースは必要であり、今後の参考になった。
- 事業化から入札契約に至るまでの問題点の整理、課題の把握といった**手続プロセスについての、事例紹介**は参考になった。

支援を受けた自治体からの感想

- 職員だけでできる部分と支援事業者による支援を受けた方が良い部分があることを認識することができ、**職員の負担軽減**にもつながった。
- 効率的かつ効果的な投資となるよう、**民間事業者のノウハウ**を上手に取り込んで事業進捗を図っていく必要性についての**庁内の共通理解**が深まった。
- 建設工事の計画から建設にあたり、**計画段階での組み立て**がその後の設計から施工にかかわる重要な要素であることを再認識できた。
- 市の状況を十分検討した上で、**従来方式を含め各方式のメリット・デメリット**も提示してもらい、方向性を示してもらうことができた。
- 各自治体が採用した方式について、**課題と採用した理由について比較できるような資料とそれらを基に作成したフローチャート**があれば、従来方式以外を初めて検討する自治体にとっては検討がしやすいと思う。

参考になった具体的な取組

